

2026年
6月17日

まち歩き：あじさいの里

31期y.okuno

色鮮やかな光景に圧倒！～形原温泉あじさいの里を訪ねて～



新聞やテレビのニュースで「見頃を迎えた」との呼び声に誘われ、友人と共に三河の名湯・形原温泉にある「あじさいの里」へと足を延ばしました。

平日だから少しは落ち着いているだろうという予想に反し、現地に到着すると大勢の観光客で大賑わい。その活気からも、ここが初夏の三河路を代表する名所であることがうかがえます。一步、園内には足を踏み入れると、そこには文字通り「見渡す限りの紫陽花」が広がっていました。

その数、実は約5万株。斜面を埋め尽くすように咲き競う姿は、まるで大自然が織り上げた一幅の鮮やかな絨毯のようです。一口に紫陽花と言っても、馴染み深い手毬型のアジサイから、清楚なガクアジサイ、近年人気の西洋アジサイまで、その種類の多さには目をみ張るものがあります。青、紫、ピンク、白と、一株ごとに異なるグラデーションの美しさは、ただただ圧倒されるばかりでした。



補陀ヶ池（ほだがいけ）を彩る、地域の手で育てられた名所

この素晴らしい景観のシンボルとなっているのが、園内中央に広がる「補陀ヶ池」です。水面に映り込む紫陽花を眺めながら遊歩道を歩いていると、この名所が歩んできた歴史に思いが至ります。

形原温泉の「あじさいの里」は、昭和40年代、温泉街の有志の方々が「訪れる人々の目を楽しませよう」と、補陀ヶ池の周囲に紫陽花を植え始めたのが始まりだそうです。当時の温泉街の賑わいと、地域を盛り上げようとした人々の情熱が、この5万株という壮大なスケールへと繋がっていき、形原の歴史に美しい花々が彩りを添えて来たのです。

